

ますますの活躍を期待

工事10社、業務9社が受賞

帯広 開 建

彰の部長表彰を執り行つた。工事部門は十社、業務部門は重複を除き九社が受賞。細井俊宏部長が受賞者一人ひとりに表彰状を手渡

へと移行し技術者には高い技術力とマネジメント力が求められる」と指摘



細井部長（左）から賞状を受け取る受賞者

技術力結集し榮譽に輝く

帯 広

【帯広】帯広開建は27

日、帯広市内のとかち館で2018年度優良工事等表彰式を開いた。部長

表彰に輝いた工事部門9社、共同体和業務部門9社の代表者と技術者に細井俊宏部長が賞状を授与。他の模範となる成果を収め、北海道開発の推進に寄与したことを称賛した。

17年度に完了した工事175件、委託228件を対象にした。それぞれ優秀な成績を収め、厳寒期や市街地での夜間施工

など困難な条件を克服し無事完遂した点、創意工夫に努め技術向上に顕著な成果を上げた点などを評価し、19件を選んだ。このうち、十勝川改修統内下流河道掘削（西江建設）と十勝川改修明野8線河道掘削（北土開発）はICT活用工事として施工した。

細井部長は「公共事業は技術力も加味する競争

し、優れた功績をたたえ、とともに、今後の活躍に期待を寄せた。

本年度の部長表彰は、二十九年度に完成・完了した工事百七十五件、業務二百二十八件の中から審査。成績評価、創意工夫、安全確保の取組などが特に優秀で、他の模範となる企業および技術者を表彰対象として選出した。

このうち、西江建設（帯広）と（株）北土開発（芽室）が施工した十勝川改修の現場に関しては、ICT活用工事となっている。



表彰式終了後、記念写真の撮影を行った（写真は工事部門の受賞者）

表彰式はこれまで本部門で挙行していたが、受賞企業の増加を受け、初めてとかち館で実施。式では、帯広開建の幹部職員が見守る中、細井部長が受賞各社の代表者および技術者に表彰状を授与した。

細井部長は「他の模範となる極めて優秀な成果を収め、業界全体の技術向上や開発事業の推進に大きく寄与した」とその功績を評価。また、開発局が推進する働き方改革やICT on constructionに関して「この取組は、若い技術者にとっても飛躍の契機となるものと考えており、引き続き皆さんの力添えをお願いしたい」と呼びかけた。

その上で「今後も一層の技術開発や優れた人材の育成に尽力していただき、北海道の良質な社会資本整備のため、ますますの活躍を」と期待した。